

い、不備な個所が現われかけた時には、手  
入れして置かねば長く維持できない、そう  
したことは皆管理者の責任であるから、注  
意するようにと聞かされて来たから、戦後  
は注意して手入れを怠らなかつた。

幼稚園教育の場として、特殊な施設の研  
究に精励せられている、名古屋第三幼稚園  
長の、浅野寿美子先生のことを知つたの  
で、種々話したが、裨益<sup>ひえき</sup>することが多いの  
で、私は心強く思い安心した。そしてよく  
相談もした。

保健室ができてからは、摂養室の畳替  
や、紙障子は透視硝子に替えて、幼児も保  
姆も母親も、皆日本間を使用しての会場に  
する時には、ここを使うことにした。  
座敷から見ると庭の佇いも、透視硝子を透  
していつそう美しく見えたのである。

思い起こせば、過ぐる廿三年の秋に、大  
阪保育会主催で、戦後の新しい保育の在  
り方<sup>ありかた</sup>につき、お茶の水女子大学の倉橋惣  
三先生と、及川ふみ先生の講習会が、四天

王寺高女で開かれ、久しぶりに倉橋先生に  
お目にかかった時、愛珠の古文獻が全部無  
事に疎開先から帰つたことを報告した時、  
二人の先生は非常に喜ばれ、そしてその  
時、倉橋先生は「古文獻はお茶の水にも有  
つて、自分が洋行する前に、全部整理して  
倉庫に入れて置きましたが、関東大震災で  
学校が罹災したので、全部無くなつてしま  
つたので実に残念でした。それで愛珠に  
は、それらが残っているから、愛珠で保存  
して置いて下さい。中村さん頼みますよ」  
といわれたことは、片時も忘れていない。

私はその後、毎日保育に精励しながら、  
文獻の蒐集整理にいっしょうけんめいであ  
つた。

愛珠幼稚園創設委員が、よくこれだけ得  
難い物を当時蒐集せられ、しかも代々の園  
長が失うことなく保存せられたことを感謝  
し、早く整理して史料室を完璧にせねばな  
らぬと、心を固めたのである。

## 幼児の教育 第六十九巻 第五号

五月号 © 定価八〇円

昭和四十五年四月二十五日 印刷  
昭和四十五年五月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一  
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行者

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村一ノ一一

印刷所 凸版印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座 東京 一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売  
所フレーベル館にお願いいたします